

その一つとして、南地区の児童館・学童保育所の建設については、地域活動拠点センターの機能も有する多機能型コミュニティ施設として、来年度の早い時期のオープンを目指し、着工します。

学校給食費の助成についても、新たに助成を幼稚園児まで拡充し、子育て世帯の経済的負担の一層の軽減を図ります。

共働き家庭の保護者や、地域から強い要望があった「病児・病後児保育所」の開設や、母親だけではなく、父親やこれから親になろうとしている皆さんに、本市のサービスや支援を知ってもらうための情報発信の強化に取り組みます。

また、地域における今後の児童数に配慮しながら、へき地保育所の整備も進めます。

女性や若者の活力を生かしたまちづくりの推進

私は4年間、市内で開催される多くの事業やイベントに参加してきましたが、

その際、高齢者や女性、そして若い世代の皆さんが、元気に活躍される姿を拝見し、非常に頼もしく感じていました。

このまちの現実と向き合い、未来の可能性に向けて活動する、そんな地域の人たちの知恵や行動力こそが、これからのまちづくりの起爆剤になると考えています。

市外から若者を呼び込み、定着につなげることも課題ですが、今年度の稚内北星学園大学の入学生は、約8割が本市の出身者であり、

大学に対する地域の評価に正直変化を感じていますし、小学校から大学へと続く教育の流れは、若者の定着や生涯教育の拠点として、教育のみならず、地域社会にも大きな影響を与えると受け止めています。

「地(知)の拠点事業」として文部科学省の認定を受けた、市内小学生の学習支援や、観光資源の開発、中央商店街に開設した「まちなかメディアラボ」を拠点としたまちのにぎわいづくり等、地域と密着した活動を実践し、まちづくりという点においても、本市に

ならない存在だと思っています。

今後は、若者の定着に向けた取り組みの一環として、また、宗谷管内唯一の高等教育機関の更なる活用を目指し、連携を強化したいと考えています。

女性や若者ならではの視点による提言やアイデアも、これまで以上に施策に反映させたいと考えており、これまで取り組んできた、女性や若者を対象にした懇談会や意見交換会を基盤として、具体的、継続的な地域活動の実践に繋がる仕組みづくりを進め、まちづくりへの積極的な参画を促していきます。

元気なお年寄りの社会参加への応援

いわゆる団塊世代を中心に、現役を引退された世代の方々が、地域活性化の原動力として、その活躍を期待されています。

地域の課題解消に向けた活動をすることで、収入も得る「コミュニティビジネス」の創設を視野に入れながら、就業の機会や、雇用の拡大とともに、高齢者の居場所や出番を創出し、生きがいを持って、元気に暮らし続けることができる環境の整備を進めます。

誇りを持てる教育とスポーツの充実

本市が「スポーツ都市宣言」を行ってから、来年で35年となりますが、この宣言にふさわしい取り組みを、改めて考える時期が来てい

ます。

計画的なスポーツ施設の整備はもちろんですが、室内スポーツや室内での冬の対策は重要です。

積雪寒冷地の「稚内らしさ」を活かしたスポーツ、カーリングについては、老朽化した施設の改築と、より多くの市民が体験できるよう普及に努め、さらに冬の体力向上やスポーツ環境の充実に、取り組んでいきます。

また、日本の最北端のまちとして、全国から参加できるようなスポーツイベントの開催などについても、検討したいと考えています。

3つ目の柱 「安心を实感できる市政」の推進

医療と福祉環境の充実

これまでも、市立病院の医師不足の解消のため、関係機関と連携し、勤務医確保に向けた取り組みや、開業医誘致活動などを進めて

きましたが、現在、市立病院の一部の診療科目での、

常勤医の不在や、民間病院での診療の縮小への懸念など、本市の医療体制は大変厳しい状況にあると言わざるを得ません。

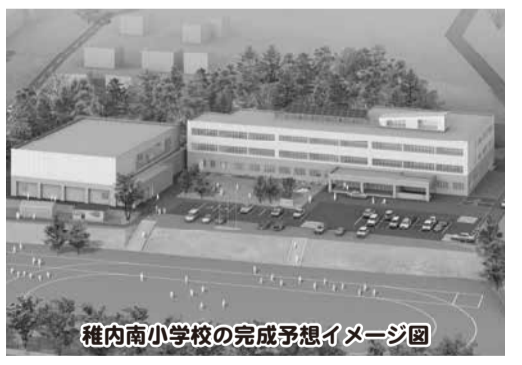
慣れた地域で、自立した生活が営むことができるよう、

医療や介護など5つの分野の連携を図る「地域包括ケア体制」の充実や、地域の多様な主体により高齢者を支援する「新たな介護予防事業」の着実な実施に向け、準備を進めています。

そうした活動の中で、医師の確保は、医療や介護が必要となっても、安心して暮らしていくための、最重要課題です。今後、これまでに以上にさまざまなネットワークを活用し、医師の確保に努めていきます。それに加え、市民の皆さん一人ひとりが、医師、病院そして地域の医療を守るために行動する、そのような機運が一層高まるよう、率先して取り組んでいきます。高齢者の認知症について、早期発見、早期治療により、できる限り進行を緩やかにさせるとともに、支援体制の整備、理解を深めるための普及・啓発を推進します。

防災対策の強化

昨年8月の大雨被害の発生は、国内外で大規模災害が頻繁に報じられる中、本市も決して例外ではないことを思い知らされました。防災、減災に取り組む中



稚内南小学校の完成予想イメージ図

で、まず、子どもの生命、安全を守るため、老朽化の著しい稚内南小学校の改築を進めるとともに、耐震度の低い小中学校などは、耐震改修を計画的に実施し、安心、安全な学校づくりを進めます。

また、地域の実情に合わせた避難計画の作成や、自主防災組織の育成など、引き続き防災対策の強化を図っていきます。

交通ネットワークと冬の住環境の充実

工事着手から3年目を迎える「緑・富岡環状通街路」における拡幅・改良工事については、引き続き必要な財源の確保に努め、早期完成を目指し整備を進めるとともに、橋梁の拡幅と耐震補強工事を行うことで、安全で快適な交通環境の整備を進めます。

高齢者が本市を離れる理

由の一つとして、冬期間の除雪の困難がありますが、

本市は、他都市に引けを取らない充実した除雪体制を敷いており、今後も、この体制を維持していきます。

特に除雪弱者と言われる一人暮らしの高齢者や、障がい者世帯の除雪支援体制について、現在、実施されている支援内容をしっかりと把握、検証し、冬でも安心して暮らせるよう対策を講じていきます。

今年度からの大黒地区に、「子育て支援型の住宅」を含む道営住宅の整備が始まります。今後も、安心して子育てができる生活環境の提供など、地域における多様なニーズに応じた、住環境の整備に努めていきます。

4つ目の柱 「賑わいを実感できる市政」の推進

外国人観光客の誘致・拡大

本市にとって、北海道新幹線の開業、オリンピック・パラリンピックの開催(夏季)や招致運動(冬季)は、人やモノの交流を拡大し、地域の活性化につなげる千載一遇のチャンスと捉えています。

本市の外国人観光客は、